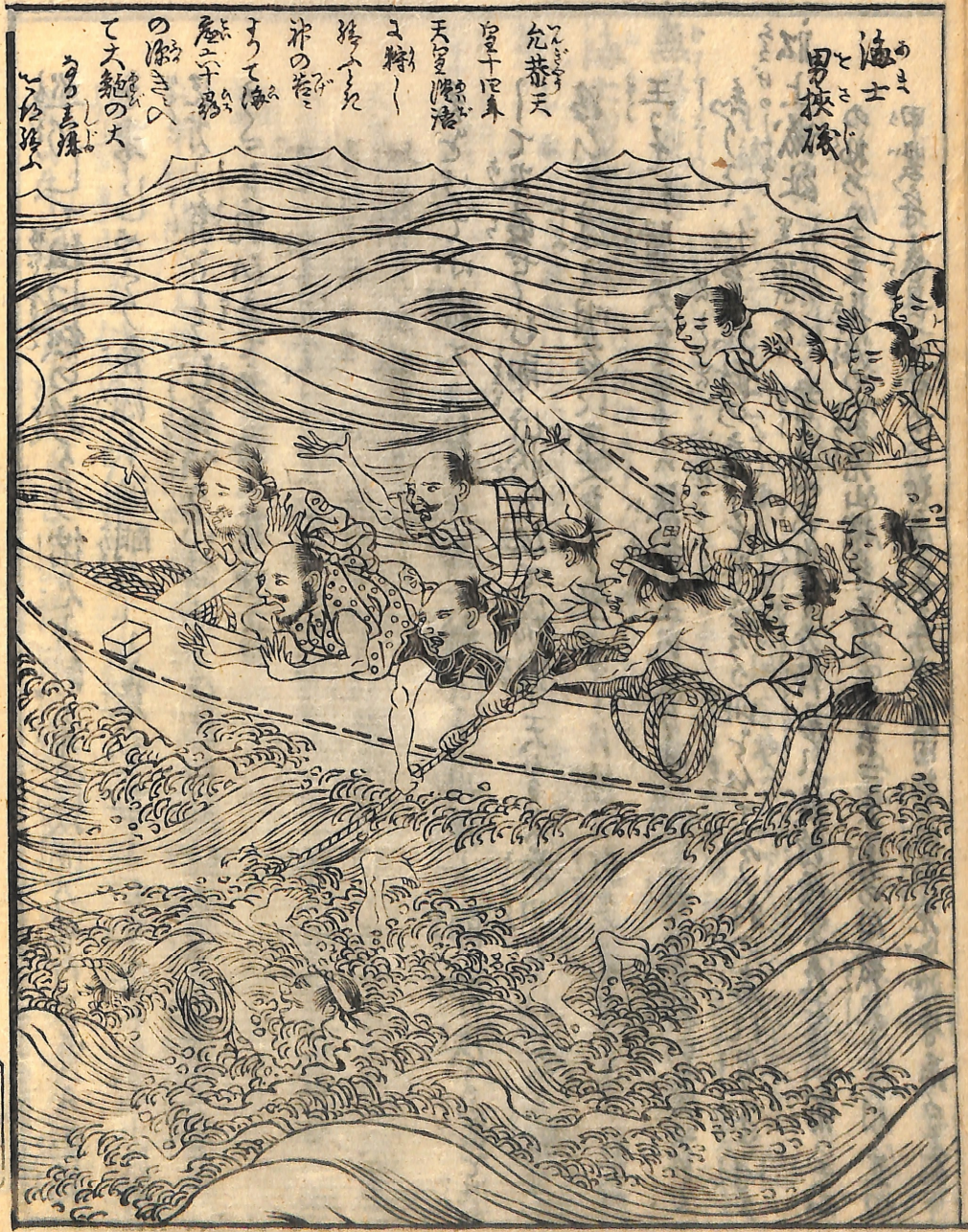
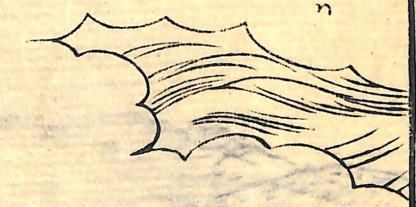


海士
男狭縁



允恭天皇
宣十三年
天皇降臨
又將一
舟の巻
すて海
底に平
の淵き
て大蛇の大
うろし
にたはる

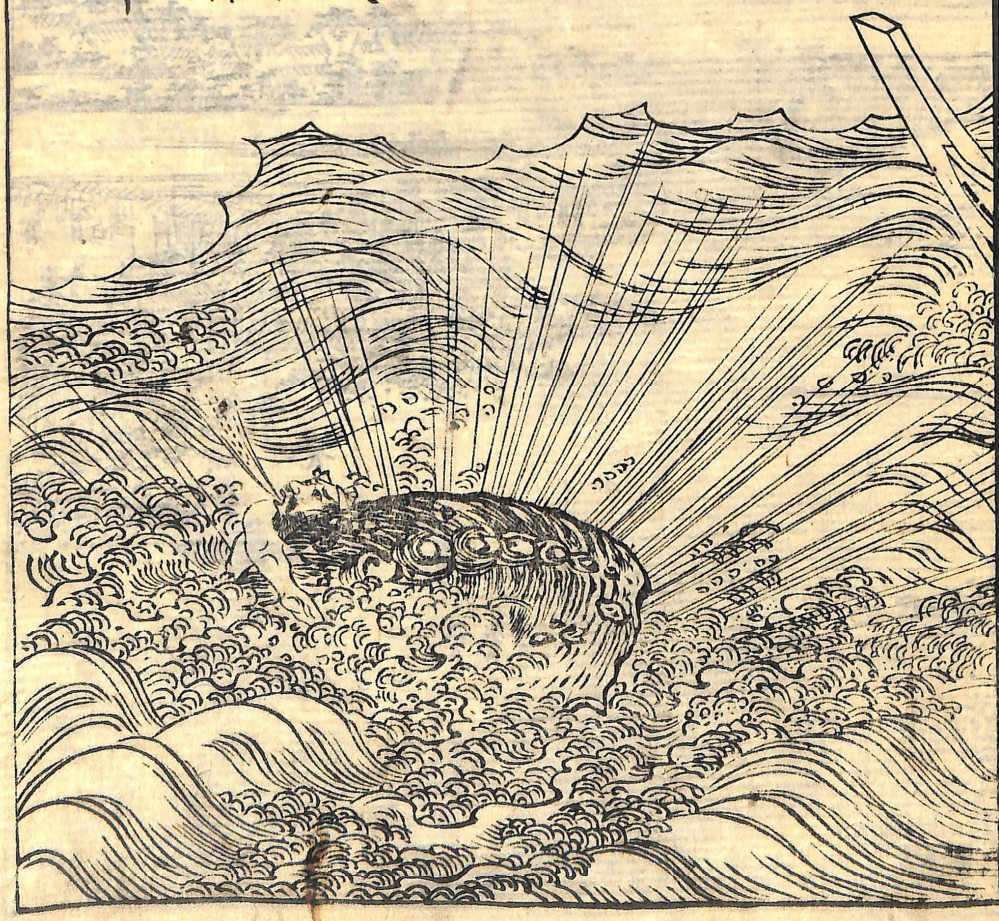
海士男
狭縁
舟に
其れと
あられ
茶



曇をつらて
憂く勢を今

うねね

武日満曲海人の魂をいもと
え補ひしもの今より
あつてえよ男海士うと
女を用ひしよと息を傷所
世のうろしは後世の
憂明るを





西ノ川
明石川

小笠原忠政居る元和八年尚郡誌載めて忠政を後よりあると
おひくは城壁るとつり妙法池田中明寺と居る所新より水門を開きて
船と通り及び舟の標石川に今尚あり是を古渡戸といふ元和小笠原
の時今乃明石の城と移れし後を平氏十二巻嘉吉元年赤松退治の
明石城上の城郭と構ふは是なり

龍幡山観音寺密藏院 弘治寺 真言宗密藏院大智寺末寺安創延喜に
年か多二佛中同一大智師地藏菩薩觀音と安創以赤捕磨の二大
刹之末寺と寺寺家教あり

山王社 密藏院の 龍幡山丹生山山王日神と云々

林村 弘治の西より村家寺密藏院と云々

寶苑寺 弘治の西より村家寺密藏院と云々

鹿ヶ砂 林村より西より海中十八里の洞乃滝川より其西限の山

の残りて麻の穴のどきぬ名付と云々

室津山十輪寺 弘治の西より村家寺密藏院と云々

和坂村 弘治の西より村家寺密藏院と云々

赤石 弘治の西より村家寺密藏院と云々

慶命山坂上寺 弘治の西より村家寺密藏院と云々

枝吉城趾 弘治の西より村家寺密藏院と云々

松は 弘治の西より村家寺密藏院と云々

大久保 弘治の西より村家寺密藏院と云々

和坂

慶命山坂上寺

其言宗船上番花流

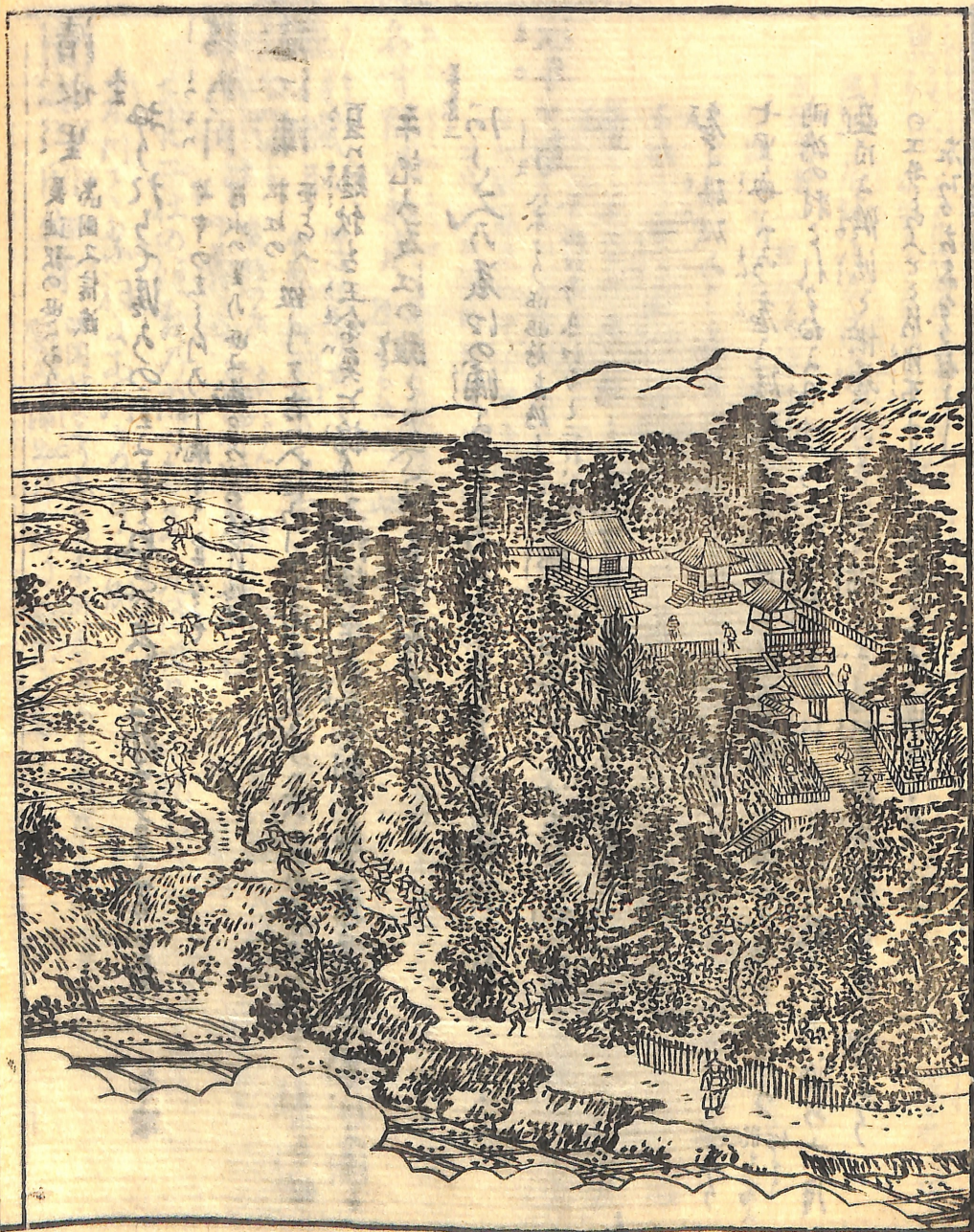
永寺御系三月七月

北一日うは難来り

定永の比の再達り

尚都元を歩附り

歌う



清水里 長津湖の西あり

舟りたりて清水の里よりぬきて外より入る

清水川 中川のまじりて清水なり

藤江浦 松江の北より古く入にゆく名不之今ハ民家の居地なり

夏ハ鯉秋ハ玉余魚と稱し又鮑魚奉安壺と制と和名抄明石郡高江は優る

平記より夏江の灘と見へり古く教あり

江井島 八木より西に清水とあり 郷人相傳へてまけ木村の川に流れて釋の基

藤江浦 松江の北より古く入にゆく名不之今ハ民家の居地なり

夏ハ鯉秋ハ玉余魚と稱し又鮑魚奉安壺と制と和名抄明石郡高江は優る

平記より夏江の灘と見へり古く教あり

江井島 八木より西に清水とあり 郷人相傳へてまけ木村の川に流れて釋の基

藤江浦 松江の北より古く入にゆく名不之今ハ民家の居地なり

夏ハ鯉秋ハ玉余魚と稱し又鮑魚奉安壺と制と和名抄明石郡高江は優る

平記より夏江の灘と見へり古く教あり

魚住泊 今ハ清水西に清水とあり 郷人相傳へてまけ木村の川に流れて釋の基

民の居地と云ふ尚ホ東江にあり

本朝文粹 一重諸修復播磨國魚住泊事

右臣伏見山陽西海南海三道舟船海行之程自生泊至轉泊一日行自轉泊

至真住泊一日行自魚住泊至大輪田泊一日行自大輪田泊至河尻一日行

此皆行基菩薩計程所建置也而今公家唯修造輪田泊長慶魚住泊由是公

私舟船一日一夜之内兼行自轉泊指輪田泊至冬月風急暗夜星稀不知

船艫之前後無辨濱岸之遠近落帆棄櫂居愁漂沒由是每年舟之蕩覆者漸

過百艘人之没死者非唯千人中界今修造件泊其新物充給播磨備前而國

正稅冀也早降聖朝援手之仁令脫天民為魚之數凡厥便宜具載去延喜元

年所獻意見之中不更重陳

延喜十四年四月廿八日從四位上行式部大輔臣三善朝臣清行上封事

名寸隅乃水津 桑原三郎前見たり其言不詳若桑原の言れぬ水津の言

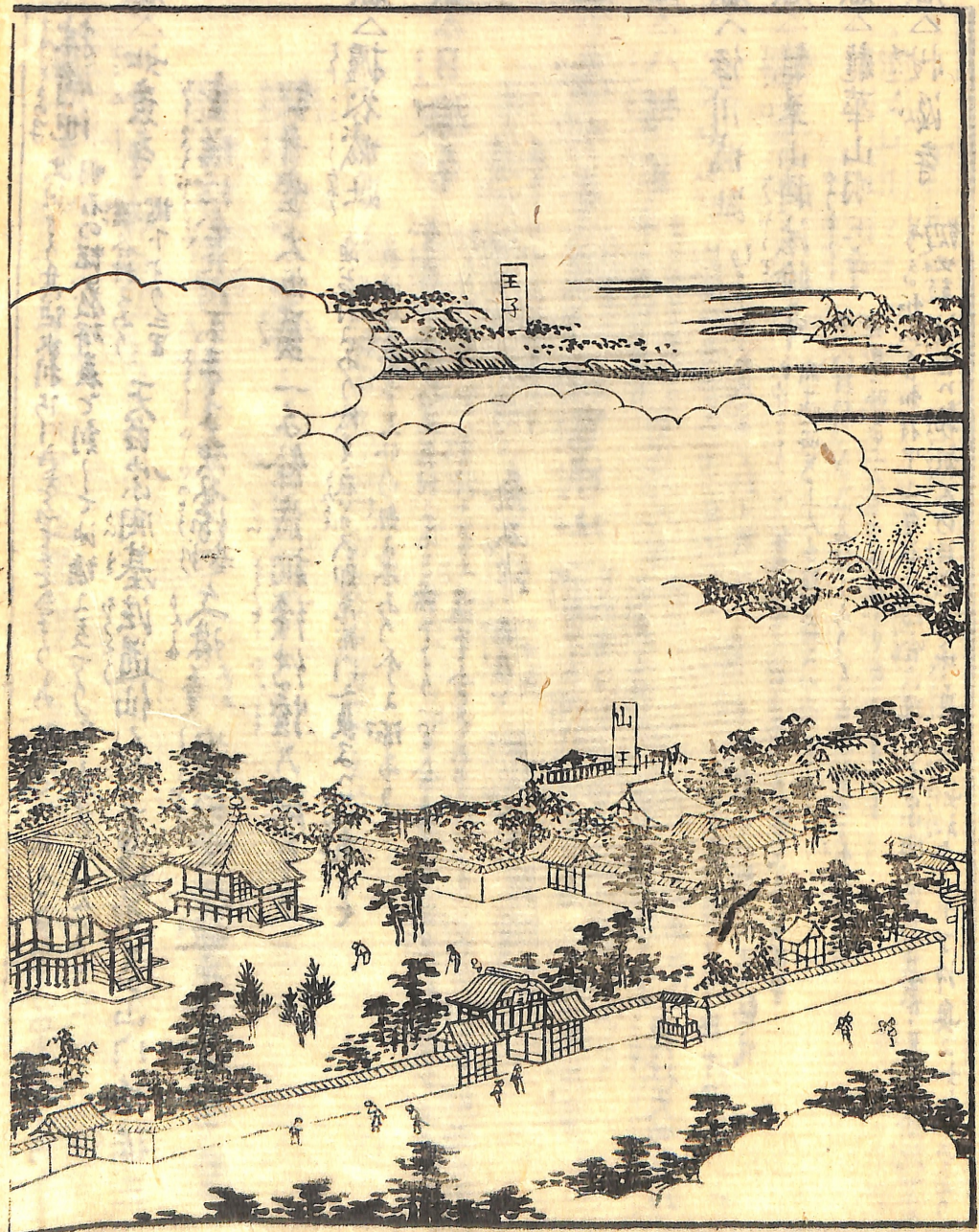
魚住城趾 西海村より城を築き長松の赤松の暮下へ文永年中撤去

佐吉神社 桑原に遷攝社 高良八幡大海津 是又桑浦也

東北二社の佐吉乃内之無事九月廿日桑原より播州佐吉の社へ

清冷山園伽寺 西園村にあり本寺の桑原桑原院より入寺なり

密藏院



此地より其地水利の一きを以てききしうみと刻て坊用人は益むこの大なるものなり
明衣の板敷坪表と刻して池塘ふまてり即文集より見んなり

天谷宗開（うへき そうくわう）基（もと）法道（はうどう）仙人（せんじん）本（もと）為（な）地苑（ぢえん）為（な）山門（さんもん）後（のち）樓（ろう）三

重信坊舎北に不事子歿の像
文殊文殊常如堂三昧寺
護摩堂

親青堂大伽藍一子餘歲相續傳燈乃地也

池田村あり、城を夜笠（きんかさ）ふ郎（ふらう）を藩門之長子（ながこ）に、范素（はんそ）とを長谷（はせ）の龜（かめ）下（した）天（てん）心（しん）乃（の）親（おや）と、志（し）あり、今（いま）又（また）あり

雪光とて、雪江、雪村より、雪下より、一里余、天谷、同基、初基、中基、多手、
親者、中基の親、八雪村より、雪江、雪村より、雪下より、一里余、天谷、同基、初基、中基、多手、
親者、中基の親、八雪村より、雪江、雪村より、雪下より、一里余、天谷、同基、初基、中基、多手、

光厳山幽秀の光と合せて
 連まゝて今うの望見なり
 須弥しゆみ祇し鹿ろくと
 いのれ
 老室らうしつ乃松なりまつ長亭ちやうていと
 なる

莖明寺
 村あり
 伊吉社
 押部の庄細田村あり
 桑津に産又楠澤宮
 天社宮社名の川又渡洲の山あり
 あり

世人只壯の實と云
年我々若明と云
糸巾又産
氣長又娘と云
玉後娘
大鯨鰐天皇
奥壯天照
糸巾又産
氣長又娘と云
玉後娘
大鯨鰐天皇
奥壯天照
糸巾又産
氣長又娘と云
玉後娘
大鯨鰐天皇
奥壯天照

諸村寺廻るにあり貝湖と云ふ
しつ明石氏某に接る
惣社 安川の辰池と村にあり郡中の
惣社と云ふ越え三年勅修

寺
たつしより二十余町の中へ村ありまゝ言ふ所の地あり
開基西より上人の坊が谷といふなり

中ふ村のてき東名村ありきき東本寺不勅明王
開基西寺上人なり西院より寺堂あり

考る和ふ高利中より奇なり防舎に院を云宗用基仍基亦高阿弥院如來
觀世音佛高利觀世音佛の巨利にて中真觀世音佛如來高利の事なり

三十五

此海寺より一里ふりてある宗圓基法道仙人の墓あり
此の墓に不動十六羅漢あり其外什物あり
社通極現

三本より三翼さんよくの方よりあり

而山東西は雙立て登とばともふ丁斗雄子尾元くく主樹り

く小洞帝釋天と繋り多例糸九月十日之山より鼎あり西の方崖に

尾ビは峯ミネ鬱うつくと鬱うつくりて小祠こでら殿重おもなり祠い前に舞臺みふたいあり素盞鳴そさの

尊稻田姫乃所交婦を祠まつ他人々大己妻命此より降臨ましく

一百八十一神と養子といふ神出乃名なりとあり又此をその原

はきく 倭石 倭石の 歛あり 倭石と 屈曲の 石の 要あり 其石

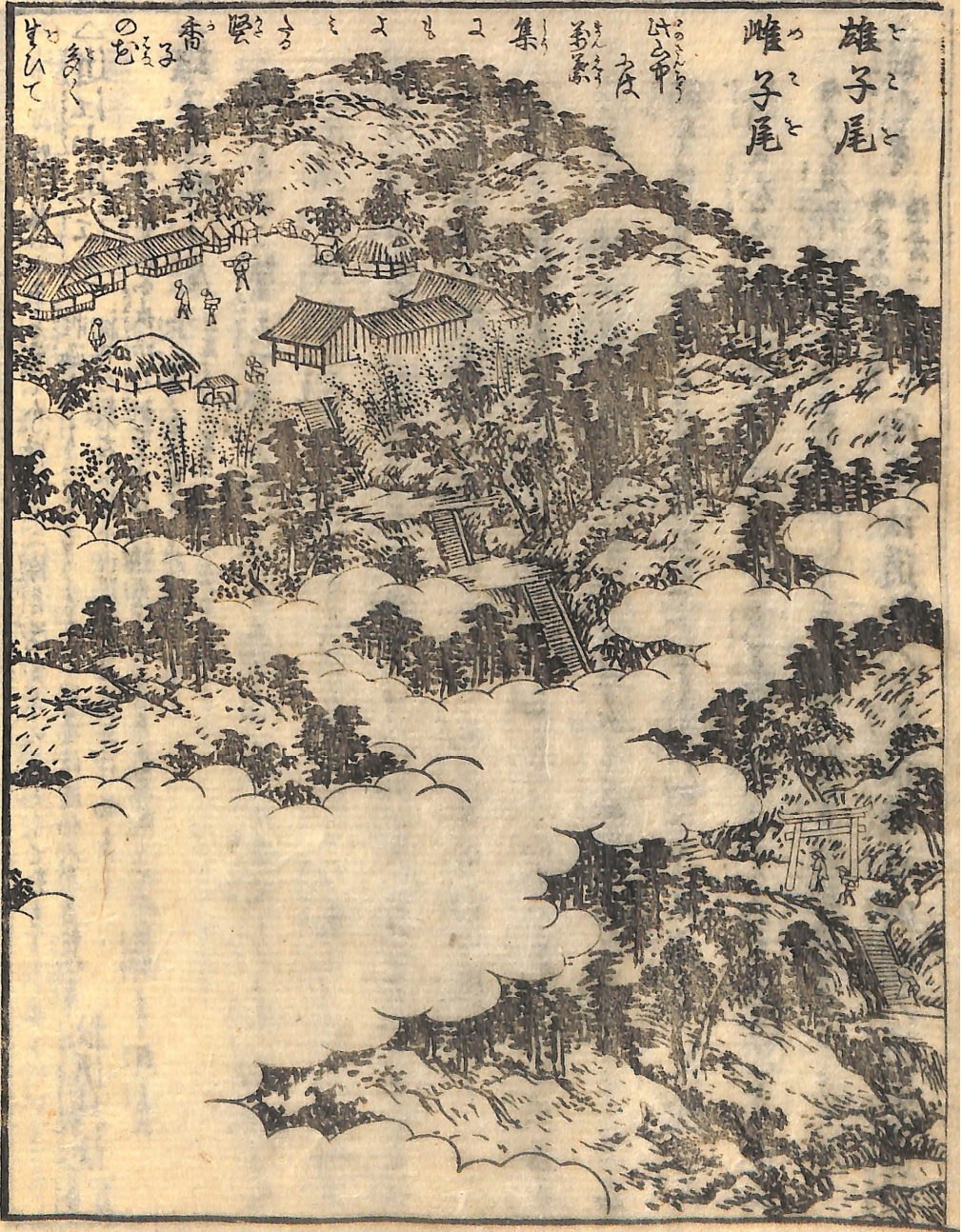
同をのほろ窪うろく陰香ふとくおぬうろく又陽石ハ大抵二尺

許又を隆就としてまうり
是の多店ういのちうをぬて造りしと云え

多^{おほ}重^{おも}郡^{ぐん}の信^{しん}多^{おほ}足^{あし}と美^み
 下^{した}て殊^{こと}又^{また}増^{ぞう}養^{やう}と新^{しん}菰^こ多^{おほ}

雄子尾のふにあり
種倉山と云に
 用基法道仙人之いひ爲相換寄時もとより頼入道諸國巡行

雄子尾
雌子尾

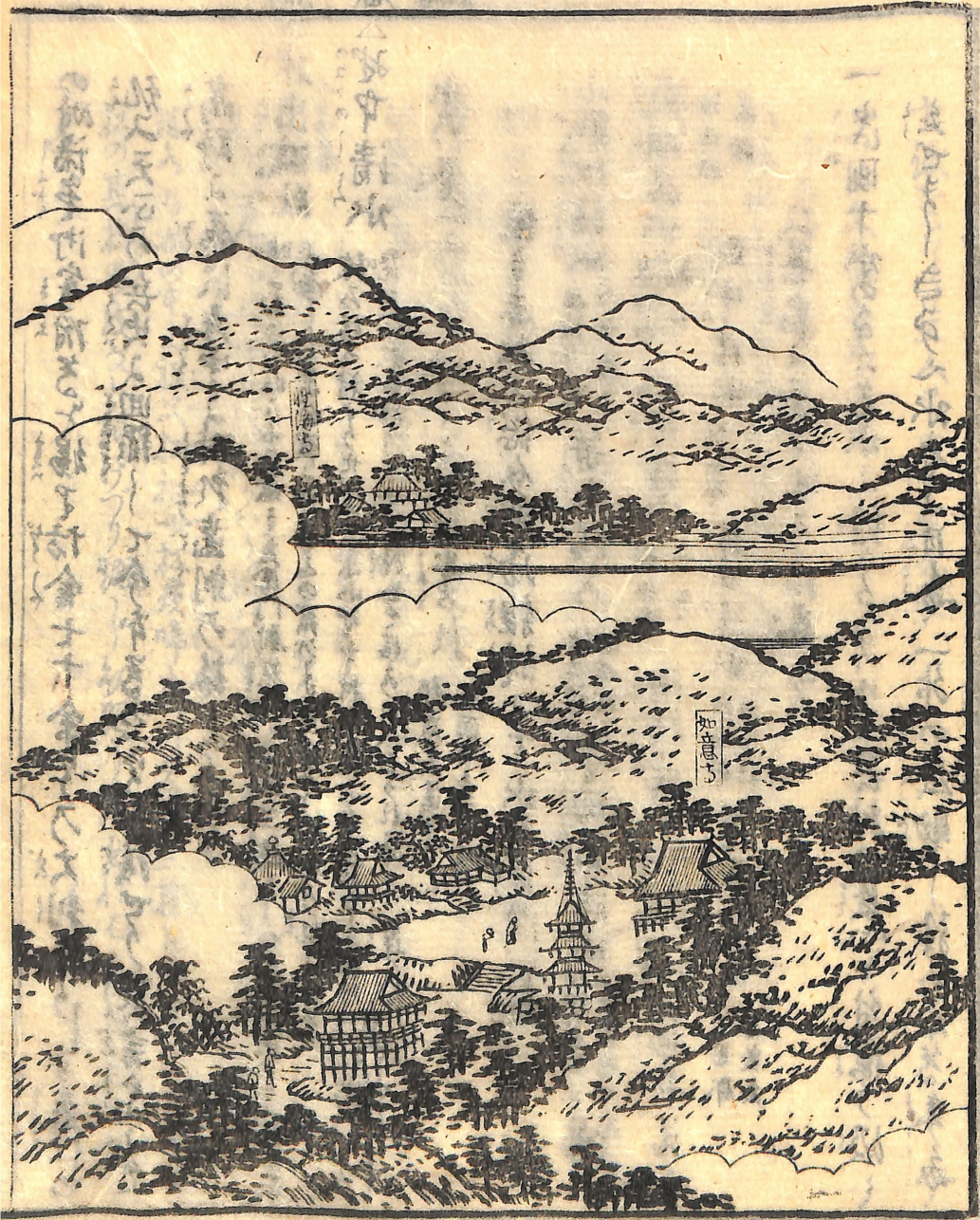


三月乃
御す
中
ま
あ
女
つ
つ
痛
あ
き
石
人
進
あ
堅
の
カ
の
症



外
石
症

近江寺
性海寺
如意寺



の耐諸軍討寄附を賜て防舎七十余を乃大刺せりし其意にの
私又天の兵火に回帰して今なる二字を後で真言宗とて
高野に属し屋中へ附れ齒削の極とてあり

山 津出城趾

津出城の跡に西より城を築き門前荒れ草の生えたる一城ありて遠くはより將軍の
旗を立てて合戦す津出城の跡に合戦ありて其功ありと云ふなり此城は

山 中清水

中清水の村ありて北に丁未の村ありて南に林の中三箇村あり是れ中清水
の村なり此村は中清水の村なり

水乃第一

水乃第一の村ありて此村は中清水の村なり

水乃第一の村ありて此村は中清水の村なり

小野江清水

小野江清水の村ありて此村は中清水の村なり

花垣清水

花垣清水の村ありて此村は中清水の村なり

中清水

中清水の村ありて此村は中清水の村なり

又其家は花垣と云ふ清水あり

一、民國十水の村へ名水と云ふるなり其村の長と付振るなり

是れ第一の清水なり其水は日毎に一升の援助し給ふ事多し

十俵とてせ三人に与付也

文龜三年二月

志水甲斐守

清水山の内也慶安無して様發物捨や同安若也

月日

いふ一乃理中の清水ありて此水を志水人そ汲む

此水を志水人そ汲む

此水を志水人そ汲む

此水を志水人そ汲む

山家集

むじ見一理中の清水なり此水を志水人そ汲む

此水を志水人そ汲む

中清水

須啼松



附録

加東郡

清水寺

号内嶽山

攝子系系をみ

當山い千有餘多の大利うく用基の

法道仙人聖武天皇乃御願方り中貞の寛治八年光若上人

かる多々親著六二西國服服士池花毘沙門大講常妙寺三昧堂後河藥

師堂池後所阿弥陀堂建立二層塔被因女所奥院かる十一面推在帝御

難也。御法名作。池に指現。作明撞接奥の院の落日奉経推接提丹播州

八幡の不動。み系松岡親松と後氏清水塔の修福富毎多二月御年大曾月

波印賢精大工系系次第

西坂法華の久米坂明石。中坂。丹波坂東の

赤松氏龍墓丹波坂の月男氏春家則祐春秀則

氏龍の信心乃子之太勇うく力多勝る又返して満兄と睡うく

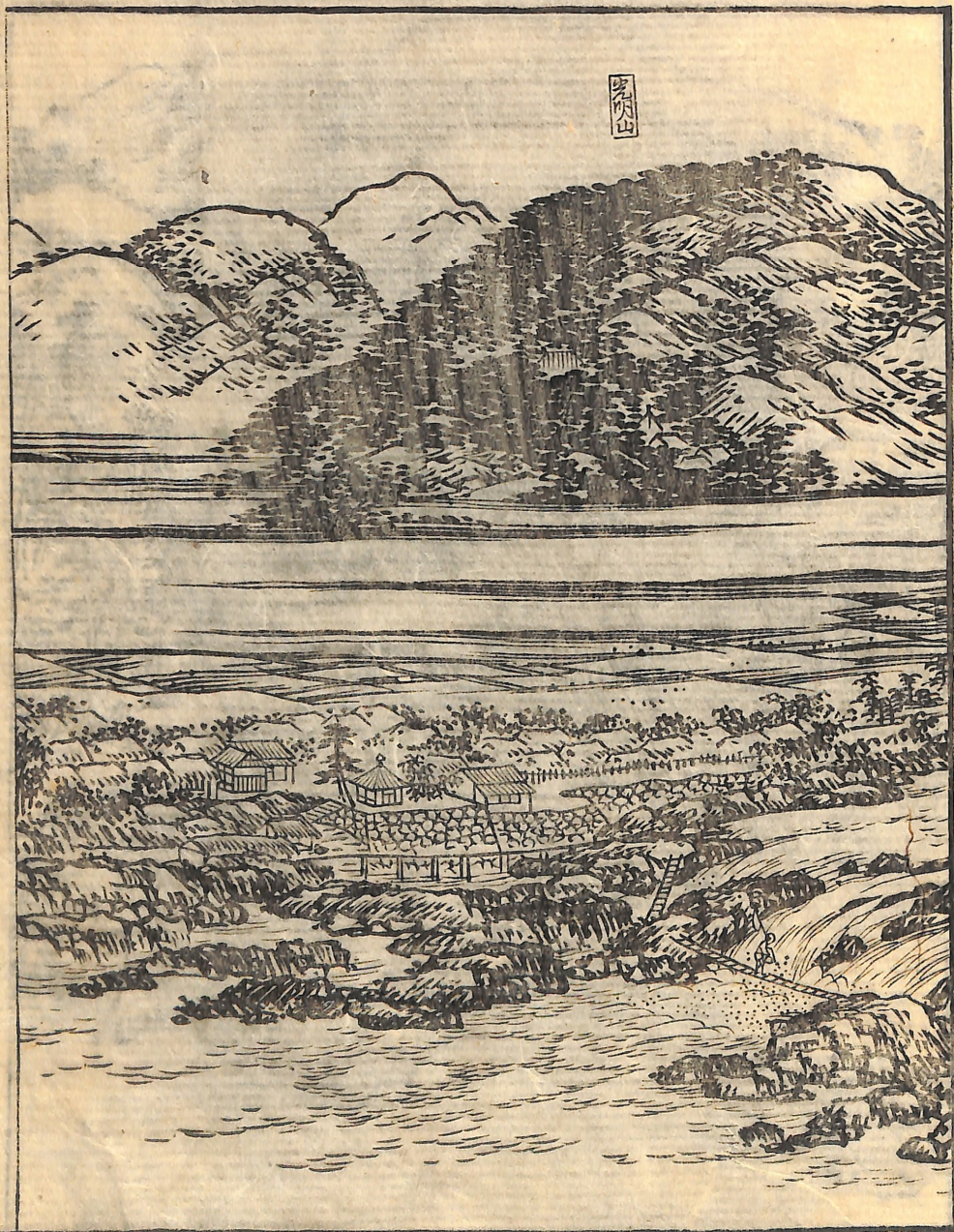
と忠臣二心と抱う氏官軍又降服して是利義治と美る上良帝又

又のんく系の関白師基とをしくこれと討吉野の兵放を交る氏龍曰

危きと見う云い不義之とく二十尺誘と牽ひく師基と戦ふ一昼夜



歩明山



引山

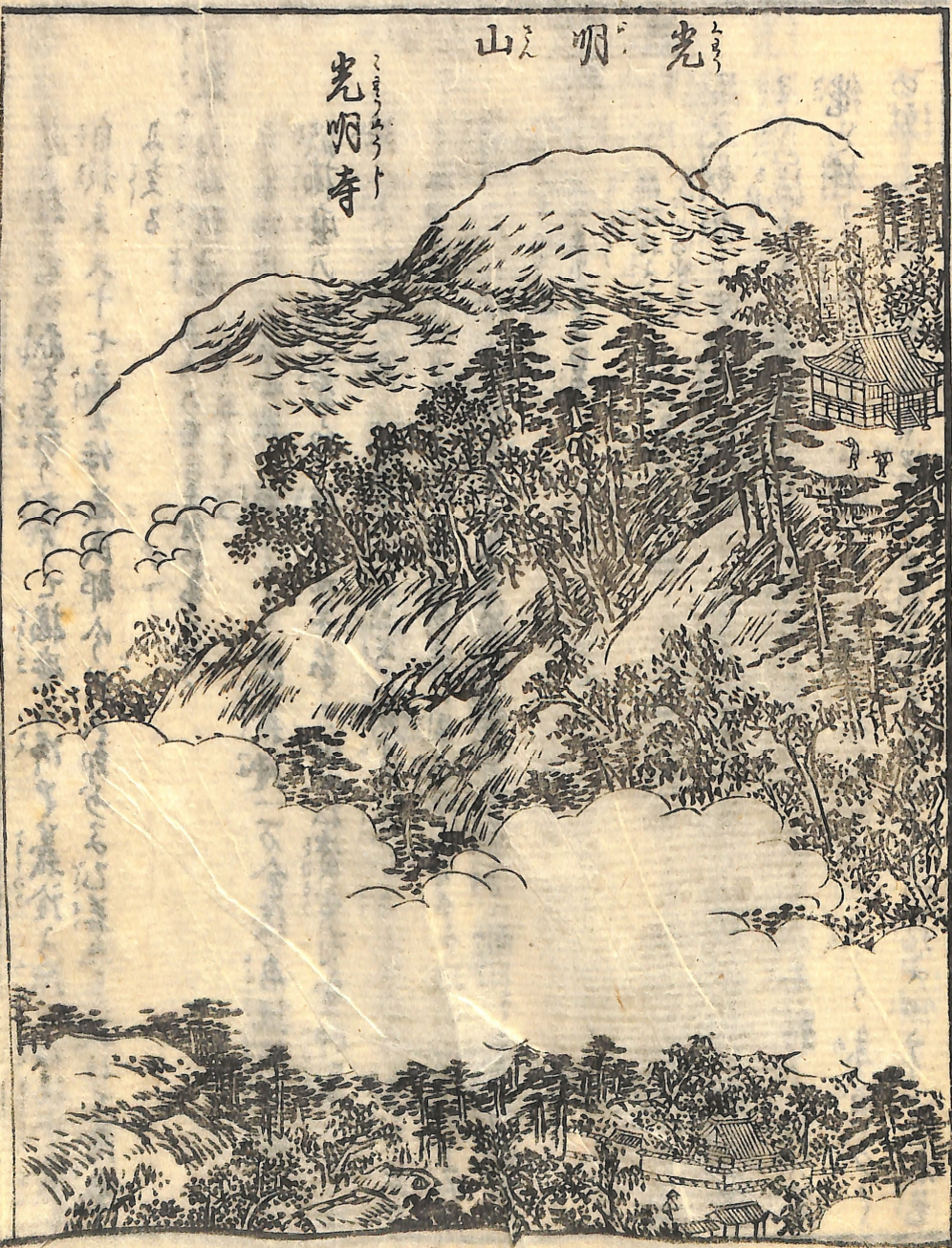
所尾山

瀧川



光明山

光明寺



乃て教ヶ石の祇を著りきりて播磨の津に義治の降る後清水は戦ひ
自殺年又十七歳士侍為民郡今村又即少子乙若丸を授けて播磨
又なる

三草山古戦場 播磨の南三草村の南なり

平家物語一谷の合戦は流くも源義隆二万余騎奮挺張るかり丹
波播磨の境三草の津と平家は小松資實有盛師聖三千余
騎三草の西の津と源氏の大ぬき夜中に思ひ寄小松の至家放火
一西の台を開とあげられ平家の津の周を繞るを源氏見しこは追
將附は六百余人と付平家の大なる資實有盛忠房の面目を奪ひるゆ
ハ勝人なり

三草川 上三草下三草の別

龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり

龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり
龍野川 龍野村より川の水を新町と云い西と龍野と云ふ都舎の地なり

と採り留め教ヶ石と云ふ春日遠近の發音より採りて其教ヶ石乃境
こゝなり

光明寺 光明寺よりあり親類の以是利を氏と金寺直と我と確執とあり直義教ヶ石

然に権現 高山 二王門 護堂 經苑 僧坊 大慈院 各寺大脚の

自画の像あり 諸人まゝ

光明寺陣處 光明寺よりあり親類の以是利を氏と金寺直と我と確執とあり直義教ヶ石

龍野古城 上勝野よりあり赤松氏重の父政資の居城なり七条家の末孫なり

鳴尾山 鳴尾よりあり加那一 鳴尾山 光明寺より加那

兵庫県立図書館
☎ 078 918 3366



100268937